

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の精神」を基盤に、激しい変化が予想される21世紀社会の担い手として、「心身ともに健康で、主体的に考え表現でき、ねばり強く頑張りぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

『かしこく』 進んで学びよく考える子ども（基礎学力を身につけ、自ら考え進んで学習する。）

『なかよく』 思いやりがあり心豊かな子ども（相手の気持ちを考え、だれとでも仲よくする。）

『たくましく』 元気でがんばる子ども（心身ともに健康で、粘り強く活動する。）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「子どもの笑顔と活気があり地域に開かれた信頼される学校」

子どもの健やかな成長のためには、学校生活の中で、学習がよく分かる喜び、自分の役割が分かり居場所のある喜び、友達や先生と心が通い合う喜びを味わわせることが大切であると考えます。

そのためには、教職員一人一人が組織の一員としての自覚をもち、互いを思いやり、居がいのある職場の中で学校目標達成に向けて同僚性を発揮していくことが望まれる。まず大切にしたいのは「わかる喜び」を実感させることができる指導力を身に付けるということである。子どもの学力を育て、心を育てることができる教師でありたい。さらに、保護者や地域への時機を得た発信と共通理解の下での連携を推進し、地域に根ざした教育活動を展開することが大切である。その結果、子ども一人一人の中に自己実現の喜びや自己肯定感などが育まれ、子どもの笑顔が輝く学校となっていくことを目指したい。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１）「感謝の心」の育成を重点に、全教育活動を通して豊かな心の教育を推進する。また、豊かな心の育成と関連を図りながら積極的児童指導を推進する。
- （２）相手を思いやり、相手の考えや意見を尊重して話を聞く態度を育てるとともに、学習や生活の場面で、その大切さや意義を実感できるよう指導を重ねることで、学びの充実やコミュニケーション力、想像力（イメージする力）などの育成を図る。
- （３）本校の研究主題『よりよい社会を目指して、仲間とともに学び合う社会科の授業』に基づく研究を推進し、授業実践を通して「よりよい社会を目指し、社会の一員として進んで社会に関わろうとする児童」「社会的事象に関心を持ち、主体的に追究しようとする児童」「社会的事象の意味を多面的に捉え、仲間とともに自分の考えを発展させようとする児童」を育成し、子どもが、自信を持って学習に取り組み、学びの喜びや楽しさを実感できるようにする。
- （４）本校児童のよさ（生活面・学習面）を生かしながら、子どもの自主的・自治的活動を促し、活性化することにより、創造力・課題解決力などの育成を図り、自らの可能性を発見したり、成長を意識したりしながら、自信を持って生き生きと生活できるようにする。
- （５）教科体育や食育、保健指導などの充実を図り、健康や体力に対する関心を高め、目標を持って運動に取り組んだり、健康の増進に努めたりする児童を育成する。
- （６）学校公開や情報発信による「地域の学校づくり」「開かれた学校づくり」を推進し、家庭や地域と連携を図った取組を継続・発展させる。また、保護者との信頼関係をより確かなものとするため、連携・協力関係を強化する。
- （７）地域学校園において、豊郷中学校・豊郷北小学校・海道小学校との連携を深め、小中一貫教育地域学校園としての取組を推進する。
- （８）学校教育目標達成のために、教職員で重点目標の設定と焦点化について共通理解を図りながら教育活動を展開するとともに、学校運営の適正化に努めながら勤務時間を意識した働き方を推進する。

【豊郷地域学校園教育ビジョン】

「豊かな郷の生き生きとした子どもたち」

〔重点課題〕

- ・分かる授業の実践や学習態度の育成、学習習慣の定着などにより学力向上を図る。
- ・すべての教育活動を通して豊かな心と社会性の育成を図る。
- ・健康や体力への意欲を高め健やかな体の育成と活力ある生活の確立を図る。
- ・家庭・地域との連携・協力を深め活気あふれる学校づくりに努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】○子どもの笑顔と活気があり地域に開かれた信頼される学校
 【学 習 指 導】○自分の思いを豊かに表現し、伝え合い、学び合う児童の育成
 【児 童 生 徒 指 導】○自ら考え判断し、自他を大切にしながら望ましい人間関係を築く児童の育成
 【健康（体力・保健・食・安全）】○自己の健康・体力に関心を持ち、進んで健康な体づくりに取り組む児童の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 （児童）「私は、今の学校が好きです」 肯定的回答 90%以上	・ 地域の教育力を取り込みながら、児童の主体的な活動を推進し、児童が学校生活全体を通して、成就感や達成感を持つことができるように、一人一人に応じた支援やよさを認め伸ばす指導・支援に誠意をもって取り組む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.2% 昨年より 0.7 ポイント増で、達成している。 【次年度の方針】 ・ 個に応じた支援・指導を心掛け、児童の主体的な活動を促し、さらに成就感や達成感を高められるような取組を行う。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 （児童）「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 肯定的回答 90%以上	・ 全教職員が学校経営の理念・方針等を共通理解し、児童のよさを認め励ましながら同一歩調で協力して学習や諸活動の教育に当たる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.4% 昨年より 0.3 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 ・ 今後も全教職員が児童のよさを認め、励ましながら協力して学習や諸活動の教育に当たる。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 （児童）「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 肯定的回答 80%以上	・ 年2回（7月・1月）「みんなのやくそく強化週間」を実施し、基本的な生活習慣を朝の会で確認しあい、さらに定着させる。 ・ 道徳の授業の充実を図るとともに、日常生活の中で機会を捉えてきまりを守ることの大切さに気づかせる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 84.4% 昨年より 2.4 ポイント増で、達成している。 【次年度の方針】 ・ 今後も継続し、授業と生活のきまりやマナーを意識させていくための指導の工夫・改善を全教職員で取り組んでいく。
	A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 （児童）「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 肯定的回答 90%以上	・ 学習内容の工夫、指導法の改善、効果的な教材の使用や指導体制・指導形態の工夫を行い、より分かりやすい授業を展開し学力の向上を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.5% 昨年より 1.3 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 ・ ノート指導やドリル等を活用し、基礎基本を中心に児童の定着度を適宜確認するなど、学力の向上を図り、保護者等の理解を得られるようにしていく。

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 (児童)「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 肯定的回答 90%以上	全教職員共通理解の下、いじめは絶対許されないことを指導するとともに、児童の小さな変化にも心を配り、チームで問題解決に取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.4% 昨年より 1.1 ポイント減ではあるが、十分達成している。 【次年度の方針】 生活アンケート（年4回）、教育相談等を実施し情報を収集する。日常の指導に加え、いじめゼロ強調月間（年2回）を活用し、いじめ防止の指導を積極的に推進していく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 (保護者)「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 肯定的回答 90%以上	- 週案で時数管理を行うことにより、教育課程が適切に実施されるようにする。 - 学校行事の計画立案・検討の際に、昨年度の反省を踏まえた改善を確実に図り、適切な運営ができるようにする。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 96.2% 昨年より 0.8 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 地域の人材・施設等の有効活用を図りながら、行事等の評価・改善、計画の見直しを行い、児童の実態に即した、無理のない教育課程を編成する。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 (保護者)「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 肯定的回答 90%以上	保護者や地域の方に年3回の授業参観や年2回のオープンスクール及び学校・学年行事への参加を促し、学校の様子を見てもらうとともに、学校だよりやホームページなどで各教育活動の趣旨や取り組みの様子等の情報を発信し、学校への理解を深める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 95.3% 昨年より 0.5 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 学校ホームページをこまめに更新し、様々な機会に紹介する。学校での児童の様子、各種教育活動についての情報を発信して、学校への理解・協力を得られるようにする。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 (保護者)「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 肯定的回答 85%以上	近隣の事業所・公共施設等との連携・協力により実施する生活科の「町たんけん」や、北高・白楊高の生徒・教員等の協力を得て実施する総合的な学習の時間など、保護者や地域のボランティア等による教育活動への支援をとおして地域の学校づくりを推進する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 91.8% 昨年より 2.7 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 地域の人材・施設等の有効活用、いろいろな交流活動をホームページや各種便り等で広報し、学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりの推進について、理解・協力を得る。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 (保護者)「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 肯定的回答 80%以上	学年縦割り班による清掃活動や花壇の整備などの委員会活動、PTA奉仕活動や地域協議会による校内環境整備の取組などにより、学習にふさわしい施設・設備の維持管理に努める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 88.1% 昨年度より 0.9 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 引き続きPTA奉仕活動、地域協議会などと協力し合い、学校内の清掃活動を充実させながら学習環境にふさわしい環境整備に努めていく。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 (保護者)「学校は、小学校と中学校が連携した取り組みを行っている」 肯定的回答 80%以上	地域学校園のビジョンに基づいて、各小中学校と連携しながら学力の向上や豊かな心の育成、健やかな体の育成に努める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 84.4% 昨年より 3.2 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 小中あいさつ運動、運動会での交流や、保健指導、給食指導、図書館教育などの取組を行い、情報を広く発信する。

教育活動の状況		A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 (教職員)「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている」肯定的回答 80%以上	学校スタッフの職務と勤務について共通理解を図り、学校の課題への対応や業務の効率的な実施に取り組めるよう教職員の協働体制を構築する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 78.0% 数値指標より 2.0 ポイント減で、達成しなかった。 【次年度の方針】 スタッフの専門性をより明確化し、また職務と勤務についてよく理解したうえで、業務の効率化につながるような活用の工夫を工夫する。
		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 (教職員)「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図られている」肯定的回答 80%以上	校務運営上、必要な情報を共有するための場を設定し、教職員、専門性を有する学校スタッフの円滑なコミュニケーションを図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 97.6% 数値指標より 17.6 ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 常日頃からコミュニケーションを図り、各自が専門性を十分に発揮できるよう、お互いにそれぞれの立場、得意分野などをよく理解し合うよう努める。
		B1 教職員は、誠実に職務を遂行し、笑顔あふれる潤いのある職場づくりに努めている。 【数値指標】 (保護者)「教職員は、誠実に職務を遂行し、笑顔あふれる潤いのある職場づくりに努めている。」肯定的回答 90%以上	全教職員が、教育目標の達成に向けて誠実に職務を遂行し、児童の成長と同僚の成長とともに喜び合える笑顔あふれる潤いのある職場づくりに努める。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 89.9% 数値指標より 0.1 ポイント減で達成しなかった。 【次年度の方針】 児童に対してはもちろん、保護者や地域住民の意見・要望等に対しても、親身になって、より丁寧な対応を心掛ける。
	生徒生活	A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 (児童)「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」肯定的回答 80%以上	地域ぐるみのあいさつ運動を展開するとともに、校内でも「あいさつ運動」を実施し、教職員が進んであいさつしたり言葉かけをしたりして、進んであいさつができるような雰囲気づくりに努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.5% 昨年より 2.0 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 生活向上委員会を中心としたあいさつ運動、学級輪番制のあいさつ運動、小中合同あいさつ運動を継続して実施していく。
		A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 (児童)「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」肯定的回答 80%以上	言語環境の整備に努め、全教職員が、望ましい言葉遣いや相手を思いやる言動などを継続して丁寧に指導する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 83.5% 昨年より 1.9 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 相手を思いやる言動と正しい言葉遣いを常日頃から指導していく。また、「あったか言葉週間」や「ありがとう週間」を継続実施し、豊かな言語環境づくりを推進する。

	B 2 教職員は、思いやりがあり心豊かな児童を育てるための指導に熱心に取り組んでいる。 【数値指標】 (保護者)「教職員は、思いやりがあり心豊かな児童を育てるための指導に熱心に取り組んでいる」 肯定的回答 90%以上	・ 「感謝の心」の育成を重点に、相手の考えや意見を尊重して聞く態度を育て、学習や生活の場でその大切さや意義を実感できるよう指導するとともに、人権週間や読書タイムの充実を図るなど、豊かな心の育成を推進する。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率 85.9% 数値指標より 4.1 ポイント減で、達成しなかった。 【次年度の方針】 ・ 人権週間での人権標語の募集及び活用、学年だより等を活用した保護者への啓発、道徳の授業の充実、豊かな心を育むプロジェクトの推進等を通し、人権意識の高揚を図っていく。
	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 (児童)「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 肯定的回答 80%以上	・ 「とよおうサーキット」を実践し、個に応じた助言を行うことにより、基礎体力の向上を図る。 ・ 学校全体でミニマム達成状況の向上を目指した指導を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.3% 昨年度より 1.1 ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・ 各種運動検定や児童会を中心とした体力を養う活動を設け、意欲的に運動することを習慣化させ、体力向上につなげていく。また、児童の実態や活動を「学年だより」や「学校だより」を通して、知らせていく。
健康・体力	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 (児童)「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 肯定的回答 80%以上	・ 日常の給食指導のほか、各教科での食育との連携を図り、給食を残らず食べようとする気持ちを育てる。また、保護者への啓発を行い、食育の充実を推進する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.4% 昨年度より 6.6 ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・ 食への感謝の気持ちや栄養バランスを考えて食べることの大切さを引き続き指導していく。
	B 3 共遊の時間や縦割り活動など体を動かして遊ぶ楽しさを味わわせている。 【数値指標】 (児童)「共遊の時間や縦割り班活動などで、楽しく体を動かしている」 肯定的回答 90%以上	・ 学級で共遊の時間を設定するなど、体を動かす楽しさを味わわせる。また、縦割り班集会では縦割り班で行う楽しい遊びを紹介し、体を動かして遊ぶ楽しさを体験させていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.8% 昨年度より 1.8 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 ・ 共遊の時間や縦割り班活動などの活動場所や内容などを検討し、楽しく体を動かす活動の充実を引き続き図っていく。学年の違う児童と一緒に活動することで、活動のやり方やコツなどを伝え合い、相手を思いやり協力し合おうとしたりする優しい気持ちが育まれるようにしていく。
学習等	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 (児童)「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 肯定的回答 85%以上	・ 「できた」「わかった」という実感がもてるような学習活動を工夫する。また、子どものよさや活力を生かした授業の展開を実践する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.1% 昨年度より 3.0 ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・ 話し合い活動では、自分の考えを持ち、友達と互いの考えのよさを認め合い、自信を持って学習に取り組み、学びの喜びを実感させる。また、つまずきのある児童に対して個に応じた指導を継続していく。

	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 (児童)「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 肯定的回答 85%以上	・ 学習のきまりを継続して指導し、基礎基本の確実な定着に努めるとともに、集中して取り組めるような指導を工夫する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.6% 昨年度より 3.1 ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・ 学習のきまりを継続して指導し、基礎基本の確実な定着に努める。 ・ 正確に聞く指導を継続していく。
	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 (児童)「児童は地域でのボランティア活動や行事に参加している」 肯定的回答 80%以上	・ 地域の行事について、学校からも児童に積極的な参加を呼び掛ける。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 85.3% 数値指標より 5.3 ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・ 地域での行事・ボランティア活動に積極的に参加するよう、休日前などに呼び掛ける。
本校の特色・課題等	B4 地域の特色を生かした教育活動を進めるために、家庭や地域と連携したふれあい活動を積極的に推進している。 【数値指標】 (児童)「地域の自然や特色について、地域の人たちとのふれあい活動をたくさん行っている」 肯定的回答 90%以上	・ 地域の文化財や特色を生かした教育活動をさらに充実させるために、年間計画の見直しや事前の計画的な準備、打合せを十分に持ち、効果的な体験活動やふれ合い活動を進めて、地域を理解し親しむ児童を育てていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.6% 昨年度より 0.9 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 ・ 豊郷地域の自然・文化財や特色を生かした教育活動をさらに充実させるために、地域や家庭と連携を図り、効果的な体験活動を積極的に進めていく。さらに活動の様子を保護者にも適宜伝えていき、地域を理解し親しむ児童を育てていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 全体アンケートでは、肯定的回答（「とても思う」と「まあ思う」を合わせたもの）が数値指標を達成した項目は23項目中20項目であった。昨年度と比較すると、特に地域住民の回答結果において、19項目中8項目で肯定的回答の割合が5.0ポイント以上増加した。地域との連携を大切にした本校の教育活動への理解が図られている。（19項目中、1項目は新規）
- 今年度の新規項目「児童は地域でのボランティア活動や行事に参加している。」では、保護者の肯定的回答の割合はやや低いものの、数値指標の児童の割合は達成していることから地域活動への関心は高いと思われる。今後も地域と連携し、地域行事等への参加について呼びかけていく。
- A17「進んで話し合い、分かりやすく発表するなど積極的に学習している。」やA18「先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」については、児童の肯定的回答が3.0ポイント以上増加し、児童の学習に向かう姿勢に向上が見られる。今年度の学校課題「よりよい社会を目指して主体的に学び合う社会科の授業」のもと、自分の考えを広めたり、深めたりする話し合い活動を取り入れて「主体的に学び合う児童」の育成や「授業のめあての明確化」・「学びの振り返り」を重視した授業の実践に努めた結果と考える。今後も基本的な学習習慣の定着を図るとともに、指導法の研究を継続し、重点目標の「自分の思いを豊かに表現し、伝え合い、学び合う児童の育成」につなげるよう日々の教材研究や指導の工夫に取り組んでいく。
- A5「いじめ対策に熱心に取り組んでいる」については、保護者の肯定的回答が低いが、65.1%から73.4%へと増加し、保護者以外の対象者と比べて増加幅が一番大きかった。今後も全教職員共通理解のもと、いじめは絶対に許されないことを継続して指導するとともに生活アンケートや教育相談の実施など積極的に推進していく。
- A13「あいさつ」やA14「言葉づかい」の肯定的回答（児童）は90.5%、83.5%と数値指標を達成している。また、保護者・地域住民の評価は昨年度より上がっていることから、生活向上委員会を中心とした「あいさつ運動」や教職員による挨拶、学級ごとの取り組みが着実に浸透しているものと考え、今後も家庭と連携しながら、挨拶の仕方や意義を再確認するとともに、日常お世話になっている方々などへの挨拶ができるよう全教育活動を通して指導を展開していき

い。言葉づかいについては、お世話になった地域の方へのお礼の言葉を述べる機会を適宜とらえたり、継続して「あったか言葉週間」や「ありがとう週間」を実施したりして意識付けを図るとともに、B2「思いやりがあり心豊かな児童の指導」と関連づけながら、今後も相手を思いやる言動と正しい言葉づかいを常日頃から指導していく。

- 健康・体力面では、重点目標「自己の健康・体力に関心を持ち、進んで健康な体づくりに取り組む児童の育成」に関する項目A15・A16・B3のすべてにおいて数値指標を上回り、肯定的回答の割合もほとんどの項目で高かった。特に、A16「児童は栄養のバランスを考えて食事をしている。」では、保護者が8.6ポイント・児童が6.6ポイント増加している。給食時の指導やお弁当の日などの食育に関わる取り組みを実践した結果と考えられるため、今後も食育だよりなどを通じた家庭への啓発や専門職による食に関する系統立った指導の実践に努めていく。

6 学校関係者評価

- ・ A13「あいさつ」については、あいさつ運動のときの様子を見ていると、よくなっている。これからも地域の大人から進んで声をかけるなどして関わっていききたい。
- ・ A3「きまりやマナー」については、地域住民の肯定的回答が83.3%から92.2%と8.9ポイント増加している一方、教職員は97.6%から90.7%と減少している。また、A13「あいさつ」やA14「言葉づかい」についても、保護者や地域住民の肯定的回答の割合は約2~9ポイント増加しているが、教職員の肯定的回答の割合が約9ポイント減少している。数値目標からすると、教職員の肯定的回答の割合が低いということではない。目標達成に向かって指導方法等の工夫や改善に熱心に取り組んでいるため、教職員の意識が高いと考えられる。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 次年度も引き続き、「子どもの笑顔と活気があり地域に開かれた信頼される学校」をめざし、学習がよく分かる喜び、自分の役割が分かり居場所のある喜び、友達や先生と心が通い合う喜びを味わわせることができるよう、教職員の共通理解のもと、全教育活動の見直しと改善を図る。
- 「感謝の心」の育成を核とした、『豊かな心の教育』や『人権教育』の推進をし、相手の考えや意見を尊重することの大切さや意義を実感できるよう学習や生活の場で指導する。また、児童の主体性や創造性を発揮する活動の推進などにより、児童一人一人が安心して楽しく学校生活ができる雰囲気や環境、いじめのない学校づくりに全教職員で努力するとともに、いじめの実情公表に努める。
- 日常生活の中で、授業と生活のきまりについて意識させていくための工夫・改善や、学習の基本である「聞くこと」の指導を充実させるとともに、自分の考えを持ち、友達と互いの考えのよさを認め合いながら学びに向かう集団作りを推進する。
- 学校園や児童会による「あいさつ運動」などを通して、挨拶することの良さを実感できる児童を育てていく。また、教職員から進んで挨拶したり言葉かけをしたりして、自然に挨拶ができるような雰囲気づくりに努めていく。
- 言葉づかいについては、今後も言語環境の整備に努めるとともに、生活面で「心をつなぐことば」や学習面で「自分の考えを深めることば」について、その意味や意義などを伝え、実践に結びつくような活動を工夫する。また、地域の方（ボランティア等）への感謝の気持ちを伝える指導を保護者と連携しながら充実させるなど、さらに相手を意識した言葉遣いができるよう取り組んでいく。
- 保護者との信頼関係をより確かなものとし、連携・協力関係を強化するため、今後も各種だよりやホームページ等での情報発信を充実させるなど、学校の取組をより分かりやすく伝えるための方法・内容の改善を図る。